

ペットも歳をとります

ペットは人と比べて、早いスピードで歳を取ります。高齢になるにつれ、視力や聴力、嗅覚などの感覚、運動機能や消化機能、体温調整機能が衰えていきます。栄養や飼育環境に気を配り、高齢のペットの状態に合わせて対応しましょう。



7歳

シニアの年代になり栄養や健康管理により気を配るようになりました



14歳

耳が遠くなり白毛も増え足腰が弱って散歩もゆっくりになりました

歳を取ると、様々な病気や症状がでます。介護が必要な場合もあります。介護は長期に及ぶこともあり、家族の協力が欠かせません。また、飼い主も無理をせず、一人で悩まずに、獣医師や飼い主仲間に相談してみましょう。

■人間の年齢に換算した犬・猫の年齢の目安*

犬・猫の年齢	人間の年齢に換算した年齢	
	大型犬	小・中型犬、猫
1歳	12歳	15歳
2歳	19歳	24歳
3歳	26歳	28歳
4歳	33歳	32歳
5歳	40歳	36歳
6歳	47歳	40歳
7歳	54歳	44歳
8歳	61歳	48歳
9歳	68歳	52歳
10歳	75歳	56歳
11歳	82歳	60歳
12歳	89歳	64歳
13歳	96歳	68歳
14歳	103歳	72歳
15歳	110歳	76歳
16歳	117歳	80歳
17歳	124歳	84歳

*品種や飼育環境等によって違ってきます

高齢になるとなりやすい病気の例

◆犬の認知症

症状：異常な食欲、異常な吠え声、徘徊、ぐるぐる回る、排泄の失敗 など
必要な介護：歩行・排泄（おむつ）・給餌の介助、投薬 など

◆猫の慢性腎不全

症状：多飲多尿、食欲不振、脱水、毛がパサつく、口内炎 など
必要な介護：ストレスのない生活、新鮮な水、療法食、投薬、輸液 など



排泄や給餌の介助が必要になることもあります

ペットの老いと向き合う

老いた時こそ、ペットの性格や好みを知り尽くした愛情深い飼い主との時間が、ペットにとっても大切な心の安らぎとなるでしょう。そして、ペットの最期を看取るのは、飼い主の義務であり、ペットを長生きさせたことの努力の証とも言えるでしょう。また、老いたペットの苦痛が激しく、回復の見込みがないときは、かかりつけの獣医師に相談して安らかに眠らせるのも愛情ある選択肢のひとつではないでしょうか。

ペットの最期を看取るのは
辛く悲しいこと…

大切なペットを失い心にあいた穴も、
1つの命と向き合い努力してきた証です。

老いてからも愛情を一杯もらい、
大好きな人に看取ってもらえたら、
ペットにとっても幸せなことでしょう。

まさに「飼い主の勲章」と
言えるのではないのでしょうか

